

検査・輸血細胞治療部

(検査部門) からのお知らせ

第8号

(平成27年9月15日発行)

外注検査について

平成27年8月1日以降に新規開始の外注検査項目について

開始日	項目名	外部委託先	摘要
8月24日	TPA(組織ポリペプチド抗原)	SRL	測定方法の変更 (RIA法からCLIA法)
	遊離テストステロン (ELISA)	LSI	
	View アレルギー36	LSI	
	凝固第II因子活性	LSI	
	凝固第V因子活性	LSI	
8月28日	凝固第VII因子活性	LSI	ファルコからLSIへ変更
	凝固第X因子活性	LSI	
	凝固第XI因子活性	LSI	
	HIT抗体 (血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体)	LSI	
	可溶性メソテリン関連ペプチド	SRL	

平成27年9月30日で中止または変更となる外注検査項目について

項目名	外部委託先	摘要
HBV-DNA TMA	BML	中止
Major bcr/abl mRNA 高感度	BML	中止
IntactPINP (インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	SRL	廃止
totalPINP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	SRL	IntactPINPからの変更

ご不明な点は、外注検査 (内線 7740) までお問合せ下さい。

尿・一般検査の報告について

2015年10月1日(木)より、尿沈査の結果表示が変わります。これは、尿中有形成分分析装置が従来のU-SCANNER II(東洋紡)からUF-1000i(シスメックス)への変更に伴うものです。JCCLS(日本臨床検査標準協議会)では、現行の尿沈査検査法 GP1-P3 の用語および判断基準では、日常検査において判断に苦慮するとの意見が多く寄せられました。そこで、JCCLS 尿沈査検査法検討委員会から尿沈査検査法 GP1-P4 が出たことから、当院でも尿沈査検査法 GP1-P4 に対応した判断基準へ変更いたします。

硝子円柱	硝子円柱以外	変更	すべての円柱	*硝子円柱以外の円柱は出現した場合のみ報告致します
(-)	1-4/WF		→	
1-/100LPF	5-9/WF		(1+) <1/10LPF	
1-9/LPF	10-19/WF		(2+) 1-2/10LPF	
10-99/LPF	20-99/WF		(3+) 3-9/10LPF	
>100/LPF	100-/WF		(4+) 1-9/LPF	
			(5+) ≥10/LPF	

WF(全視野)からLPF(弱拡大)への変換表

1-4/WF	→	(1+) <1/10LPF	20-99/WF	→	(2+) 1-2/10LPF
5-9/WF					(3+) 3-9/10LPF
10-19/WF	→	(2+) 1-2/10LPF	100-/WF	→	(4+) 1-9/LPF
					(5+) ≥10/LPF

変更点と効果

- ・2種類の報告方法の統一化

→LPF(弱拡大:100倍)とWF(全視野)の2種類で報告していたものを統一化することで、さまざまな円柱の数が比較しやすくなります。

- ・数値だけでなく、定性値も報告

・(-)~1-9/LPFを細分化し(1+)<1/10LPF、(2+)1-2/10LPF、(3+)3-9/10LPFを作成
→数値だけではわかりにくい円柱出現の程度が、(1+)~(5+)の段階を表記することで把握しやすくなります。

注)硝子円柱以外の円柱はこれまでWF(全視野)を用いていたため、10月以前との評価に注意してください(特に20-99/WF、100-/WF)。

評価の際は、上記のWF(全視野)からLPF(弱拡大)への変換表を参照して下さい。

ご不明な点は、一般検査(内線7757)までお問合せ下さい。

血液ガス分析について

血液ガス分析のオーダーリングは、7月1日（水）より開始いたしました。オーダー入力時に患者 ID を入力するケースが散見されます。検査オーダー後、検査指示書のバーコードラベルを読み込ませてから測定して下さい。血液を吸引後にバーコードラベルを読み込んで頂いても大丈夫です。血液ガス分析操作手順はサイボウズにも掲載してあります。

血液ガス分析操作手順

**注：検査オーダー実施時の検査会計は、
入院オーダー：検査実施時、外来オーダー：検査指示書発行時
に自動的に発生しますので、他の操作は不要です。**

ABL800FLEX シリーズ 測定方法



- ① 画面左上の文字が「測定可能」になっていることを確認して下さい。
(各項目の表示も **緑** になっていることを確認してください)

キャリブレーション中は、画面左上の文字が左図のような表示になります。
急いで測定したい時は、**赤** マークを押せば、キャリブレーションを中断できます。
「測定可能」の表示になってから測定して下さい。



- ② バーコードを認識させます。
※血液吸引後でも可能です。

注：検査オーダー後、検査指示書のバーコードを読み込ませて下さい。



- ③ シリンジでの測定は、写真の様に、左側のインレットフラップ（青いフタ）を上げます。

毛細管（キャピラリー）での測定は、右側のフラップを開けます。



- ④ シリンジをインレットに入れて固定します。

この時、血液を絶対に押し込まないで下さい！

キャピラリー（毛細管）測定の場合は、右側からキャピラリーを奥まで差し込みます。

ご不明な点は、生化学検査室（内線 7742）までお問合せ下さい。

発行人 北島 勲

部署 富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部